

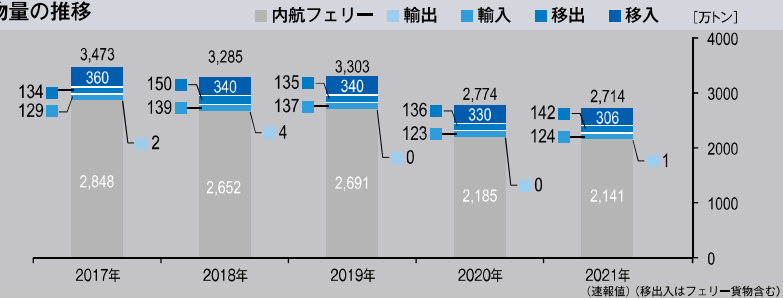
鹿児島港



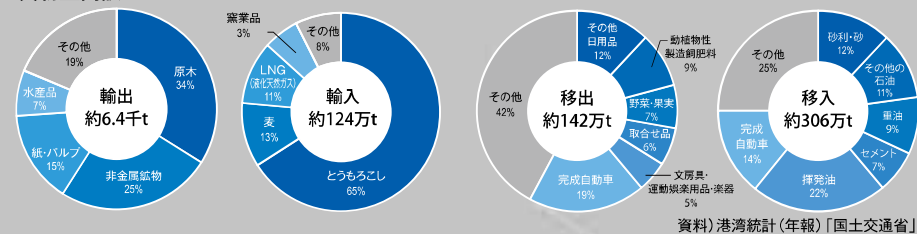
鹿児島港は、離島への玄関口として市街地に位置する本港区から、南に新港区、鴨池港区、中央港区、谷山一区、谷山二区、浜平川港区と広がる七つの港区で構成され、その延長は南北20kmにも及びます。

種子島、屋久島及び奄美大島などの離島や大隅半島を結ぶ定期船の基地港として住民の生活を支えるとともに、地域の主要産業である観光業、畜産業などを支える拠点として、地域経済の発展に大きな役割を果たしています。

取り扱い貨物量の推移



貨物量内訳



新港区

本港区

鴨池港区

中央港区

谷山一区

谷山二区

浜平川港区

離島

県内の離島や沖縄へ向けた日用品等を取り扱っており、島民にとっての重要なライフラインの役割を担っています。

観光業

クルーズ船の寄港に対応するためのふ頭整備や、県民や観光客が、憩い、海と触れあえる緑地空間の整備、離島等の急患搬送用ヘリポート等の整備、そして桜島土流土砂や公共残土の受け入れを目的として整備されており、県全体の経済効果の向上にもつながっています。

畜産業

県の特産である畜産用のとうもろこしや麦などの飼料等が輸入されており、県内の畜産業を支えています。

ライフライン

生活に欠かすことの出来ない液化天然ガスを輸入しており、エネルギー関係や自動車、食品等に関連する工場も数多く立地しています。

鹿児島港 国際クルーズ 拠点整備事業

近年、国際クルーズ船の鹿児島港への寄港が急増しており、大型化が進む国際クルーズ船に対応できていない状況や予約の重複で寄港を断念する状況などが発生しています。

そういった国際クルーズ船の寄港機会の損失を回避し、新たにクルーズ船用岸壁を整備することで、外国人観光客の訪問による地域経済の活性化と賑わい創出を目的とした事業です。

鹿児島と世界をつなぐ

イメージパース

鹿児島港 臨港道路整備事業 (鴨池中央港区線)

鹿児島港から県内離島・沖縄へ搬出される貨物は、港内南側の物流倉庫等の拠点「谷山地区」と港内北側の物流・人流の拠点「新港区・本港区」の約15km陸上輸送しています。鹿児島港では各地区を結ぶ幹線臨港道路が計画されており、「鴨池中央港区線」が未整備であることから慢性的に渋滞している一般道路を通行せざるを得ない状況であり、課題となっています。

臨港道路を整備することにより、谷山地区と新港区・本港区の連携が強化され、港の物流機能向上・交通の円滑化を目的とした事業です。

鹿児島のくらしを築く

イメージパース